

2025年度公演

神楽会館

K A G U R A K A I K A N

入場料 一般: **1,000円** 中学生以下: **500円**
(当日はともに500円増)

※チケットは事前予約もしくは当日販売で受付致します。
お問い合わせは神楽会館まで

先人達の英知と情熱で受け継がれた『神楽』。
舞手の鼓動や息づかいが伝わってくる
神代の世界に触れる。

8月
(第195回)

一般公演

2025年8月17日(日) 12:30~15:30

出演団体 浅草流松尾神楽
竹野浦神楽保存会

予約開始日 2025年6月17日(火)

9月
(第196回)

一般公演

2025年9月21日(日) 12:30~15:30

出演団体 浅草流大迫神楽
阿蘇野神楽座

予約開始日 2025年7月21日(月)

10月
(第197回)

一般公演

2025年10月19日(日) 12:30~15:30

出演団体 浅草・犬山神楽社
庄内原神楽保存会

予約開始日 2025年8月19日(火)

11月
(第198回)

一般公演

2025年11月16日(日) 12:30~15:30

出演団体 御嶽神楽

予約開始日 2025年9月16日(火)

神楽会館

神楽公演 協賛/  **ぶんごおおのエネルギー**



浅草流松尾神楽
竹野浦神楽保存会

浅草流松尾神楽
浅草流松尾神楽

浅草流大迫神楽
浅草流大迫神楽

浅草・犬山神楽社
浅草・犬山神楽社

阿蘇野神楽座
阿蘇野神楽座

御嶽神楽
御嶽神楽

庄内原神楽保存会
庄内原神楽保存会

チケット販売場所 豊後大野市神楽会館

主催/豊後大野市神楽会館 共催/豊後大野市、豊後大野市教育委員会

後援/NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・J:COM大分ケーブルテレコム・エフエム大分
大分合同新聞社・朝日新聞大分総局・読売新聞西部本社・毎日新聞社・シティ情報おいた

お問い合わせ/豊後大野市神楽会館 〒879-6903 豊後大野市清川町砂田810番地 **TEL:0974-35-2372**



神楽会館

検索

全席指定/288席 (車いす席3席・介助者席3席)

神楽会館HP

▲ ホール内でのフラッシュ撮影及び、席を移動しての撮影は禁止といたします。



【交通アクセス】

■ JR豊肥本線利用の場合
大分〜豊後清川駅…50分
豊後清川駅より…徒歩5分

■ 車利用の場合
大分から…50分
福岡から…3時間
大分空港から…2時間



8月

(第195回)

一般公演

あさくさりゅうまつおかぐら
浅草流松尾神楽

県内でも最も多く伝播する浅草流の流れをくむ神楽で、勇壮かつ活発な浅草流の特徴をよく伝える神楽座。昭和52年には大分県指定となり、以降途絶えることなくその舞を伝えている。今もその継承活動は盛んで、雄大な自然に包まれた市内三重町松尾地区の公民館を拠点として黙々と練習に励んでいる。子ども神楽を結成し後進の育成だけでなく、地域活性化、青少年の健全育成にも貢献している。

たけのうらかぐらほぞんかい
竹野浦神楽保存会

佐伯市蒲江竹野浦天満社付きの佐伯系神楽、明治35年蒲江町蒲江浦より伝授され、その後一時戦争等により途絶えていたが、神社関係者、地元有志により復興、竹野浦地区神楽の文化継承、後継者の育成を目的に昭和49年に保存会が結成されている。

採り物神楽といわれる佐伯系神楽は、佐伯市を中心に直川、蒲江に伝播している。岩戸神楽に比べ演目数は少ないが、直面だけでなく着面も含まれている。典雅で清楚とされ優雅な手振りの舞いと、勇壮で激しい舞との両面を併せ持っている。



9月

(第196回)

一般公演

あさくさりゅうおおさこかぐら
浅草流大迫神楽

大迫神楽は、明治5年に創始したといわれ、豊後大野市千歳町高添にある下の原天満社付きの神楽座。千歳町浅草流3座の一角を占め、他の神楽座と同様に活発に活動を行っている。

昭和8年には神戸市生田神社での奉納舞も行っており、浅草流の特徴であるスピード感を持ち味としながら、古式善とした堅実な舞を得意とし、その独自性を保っている神楽座である。

あそのかぐらざ
阿蘇野神楽座

阿蘇野神楽座は、由布市庄内町に12座ある神楽座の一つで、大野系岩戸神楽の豊後大野市朝地町の深山流神楽を継承しており、18名の楽員で地域の素晴らしい伝統芸能を継承すべく、つねに修練を重ね地元の神楽の保存継承に努めている。

その舞の特徴は、勇壮・軽快で、年間を通して町内外の春・秋の大祭での奉納舞はもちろんのこと、各種イベントにも参加するなど活躍している神楽座である。



10月

(第197回)

一般公演

あさくさ・いぬやまかぐらしゃ
浅草・犬山神楽社

豊後大野市大野町には、浅草神社付・浅草神楽社と上津神社付・犬山神楽座が存在していた。浅草神楽座はいくまでもなく浅草流の本山とされる神楽座。一方、犬山神楽座は県の文化財指定を受けるほどで、一説には、上津流とも呼ばれる神楽座である。

しかし、双方の神楽座とも過疎高齢化により存続の危機を迎え、平成14年に保存会を結成し現在に至る。大野町で活動する唯一の神楽座として継承活動のみならず、祭典での奉納舞や小中学校での学習会、福祉施設の慰問など積極的に地域活動を展開している。

しょうないばるかぐらほぞんかい
庄内原神楽保存会

「安永7年(1778)に社家集団による神楽の奉納が行われた。」という記録が残る大分県由布市の庄内神楽。今のような形として始められたのは、明治の初期に一般の氏子などによる同好会的神楽集団が組織されるようになり、大野系岩戸神楽発祥の地から伝承されたもので、浅草流を継承している。庄内地区系の神楽を継承する庄内原神楽保存会は昭和2年に小原神楽座として発足、昭和51年に、庄内原神楽保存会となった。また、出雲神楽の長所を取り入れた娯楽性の高い神楽で、比較的早いテンポにのって勇壮に、時にはユーモラスに舞い継がれ、人気を博している。



11月

(第198回)

一般公演

おんだけかぐら
御嶽神楽

宝徳元年(1449)大友親隆公がこの地に御嶽神社を勧請した際に発祥したといわれる神楽。平成19年に国の重要無形民俗文化財に指定され、その調査研究事業により江戸時代後期に当時の神主加藤筑後守長古により現在ある形の大野系岩戸神楽の原形が創られたことがわかり、無形の民俗文化財として、学説的な裏打ちがなされ貴重な芸能となっている。一時その存続さえも危ぶまれた時期もあったが、当時の清川村あげでの保存活動によって復活。御嶽流神楽大会、大分県総合文化センターでの単独公演、国際民俗芸能フェスティバルへの出演など活発に活動している。